

平成 27 年 12 月 11 日

総合教育会議 会議録

長岡市



1 日 時 平成 27 年 12 月 11 日 (金曜日)

午前 10 時 00 分から午前 10 時 40 分まで

2 場 所 アオーレ長岡 第二応接室

3 出席者

市 長 森 民夫

教育委員長 大橋 岑生      教育委員 羽賀 友信      教育委員 中村 美和

教育委員 青柳 由美子      教 育 長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長                      佐藤 伸吉                      子育て支援部長                      若月 和浩

教育総務課長                      武樋 正隆                      学校教育課長                      竹内 正浩

学校教育課主幹兼管理指導主事      宮 宏之

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐      水内 智憲                      教育総務課庶務係長      佐藤 裕

## 6 会議の経過

(佐藤教育部長) 第三回総合教育会議を開催する。まず、この会議を主催する森市長から、ごあいさつをお願いしたい。

(森市長) これまでにいただいた意見をまとめた教育大綱案について、意見を伺いながら最終決定したいと考えている。地方創生の総合戦略の中でも、息の長い政策として、子どもたちがふるさとを愛する教育を掲げている。市長としての基本方針に基づいて、しっかりと実現していく責任が教育委員会にある。十分に意見を拝聴した上で最終決定したい。

(佐藤教育部長) 市長から改めて、教育大綱案についてご説明いただきたい。

(森市長) 基本方針が5つある。1番目は、ふるさと長岡を愛するということである。これには私自身、非常に強い思いがあり、一番大事な方針である。2番目は、子育て支援と教育を一貫して取り組むという長岡市の特徴を書いた上で、一人ひとりを大切にするという意味で書いた。3番目は、熱中！感動！夢づくり教育の基本である基礎学力を中心とした確かな学びでやる気や学ぶ意欲を高めるということで、自ら成長するということに思いを込めた。4番目は、貧困対策が話題になる中、大切な教育の機会を公平に提供するという意味の大事な方針である。5番目は、耐震対策や教育施設の整備、特に中学校の冷房設備について書いた。概要は以上である。まず1番目について、意見・感想はあるか。

(青柳委員) 1番目の「ふるさと長岡に愛着を持つ」というのが大切だと思っている。「ふるさとの素晴らしさを自慢できる子どもを育てる」という一文があるが、自慢できるほどにふるさとを理解した子どもを育てるという意味に捉えた。しかし、「自慢」では威張っているという印象にとらえられる可能性もある。「ふるさとの愛着を語れる子ども」または「語ることができる子ども」に変えたほうが良いのではないか。

(森市長) 「自慢」という言葉の意味の捉え方が、人によっては異なるので、そのように考える方も中にはいるだろう。

(中村委員) 「自慢」という言葉だと、ニュアンスがあまり良くない。

(森市長) 私からすると、その考え方が日本的でありあまりよくないと思っている。国際的に見れば、自ら誇りを持って語るというのが大事なことである。自慢するこ

を抑えるのはよくないことだが、主旨は変わらないので、「ふるさとの素晴らしさを理解した上で語ることで育てる子どもを育てる」ではどうか。大綱は、全体として硬い言葉を使わずに分かりやすい言葉を使っている。

(中村委員) 3番目の「互いの違いを認め尊重し、協調できる子どもを育てる」とあるが、「協調」ではなく他によい言葉はないだろうか。協調では能動性がないように感じる。

(大橋委員長) 協調では静的な捉え方になってしまうので、動きに繋がるような「協働」という言葉はいかがか。協調も含んだうえで、次の行動へと感じさせる言葉だと思う。

(中村委員) 「共生」はどうか。

(森市長) 中村委員の意見が、協調は自分の意見を言わずに他人の意見に従ってしまうという意味だとすると、単に言葉の問題であると感じる。「君子は和して同ぜず」という言葉があるが、「和す」と「同じになる」ことは違う。ご意見は、空気を読んで自分の意見を言わずに妥協して合わせてしまうことだと捉えられるということか。それでは「互いの違いを認め尊重し、生かし合える」ではどうだろうか。個と集団の対立関係は常にあり、自己主張がわがままになるか、集団にとってプラスになるかというのは永遠の課題である。「互いの違いを認め尊重し、行動できる」では言い足りない気がする。互いの違いを認めて尊重することは、国際的にはすごく大事なことで、何でも全会一致しなければならないという日本的風土に対する私の反発がある。自分と違う意見を言った相手や、性格、趣味嗜好の違いを受け入れられる人間を育てたいという気持ちを込めている。反対意見があった時、うやむやにして議論せず、大勢の意見に従うような子どもは日本だけである。はっきり意見を言うといじめられるので、例え嫌いなものでも好きだと同調してしまう子もいる。このことを言いたかったのだが、協調というと大勢に従って異なる意見を言わないと受け取られてしまう可能性もあるため、「生かし合う」が妥当ではないか。

(中村委員) 「協調できる」と、協調しなければならないと捉えられてしまう。「生かし合う」は良いと思う。

(森市長) 「協」がなく「調和」であればもっと意味が深いのだが、「協調」で

は、自分の意見を殺して大勢に従うというイメージが出てしまう。「生かし合う」は積極的で動きが出る言葉だと思うので、「互いの違いを認め尊重し、生かし合う子どもを育てる」としたい。2番目について意見はないか。「子ども一人ひとりの個性・特性を大切にする」とは誰もが言うことであるが、その次の「可能性を引き出し伸ばす」の伸ばすに意味を込めた。「可能性を引き出し育てる」でも分かりやすくてよいと思ったが、「伸ばす」で良いか。また、幼保小中連携は理念とは違い、手段的なことなので異論はないと思うがどうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(森市長) 「可能性を引き出し伸ばす」とことと「自ら成長する」という意味を込めた。「ドキドキ、わくわくする体験の場を提供する」では、言葉足らずのようにも思える。「興味を持たせる」と付け加えてもよい気もする。

(大橋委員長) 「豊かな体験と確かな学び」は熱中！感動！夢づくり教育の柱である。今年度は第2ステージに入ったことから皆さんへの説明機会が多々あり、その場で「志を持って目標に向かう」という言葉を多用してきた。「自ら成長する」はいい言葉だと思うが、「志を持つ」という言葉を入れてはいかがか。

(森市長) 「志に向かって自ら成長する」ではいかがか。

(大橋委員長) 志を「持つ」ということを強調したい。

(羽賀委員) 「体験の場を提供することによって、志を持って目標に向かって努力し続ける子ども」ではいかがか。

(森市長) 「ドキドキ、わくわくする体験の場を提供することにより、志に向かって自ら成長する子どもを育てる」または「志に向かって努力する子どもを育てる」ではいかがか。今の文章は「体験の場を提供する」という手段で終わっているが、「体験の場を提供する」意義がわからない人がいるので、志を持ってもらうことを書いたほうがよいと考えている。「志を育み、自ら努力する子どもを育てる」ではいかがか。

(加藤教育長) 「体験の場を提供することにより志を育み、その実現に向かって努力する」ではどうか。

(森市長) 逆に、「志を育み、その実現に向かって努力する子どもを育むため」を前に持ってきて、「ドキドキ、わくわくする体験の場を提供する」とすると、体験

の場を提供する目的がはっきりする。また、「確かな学力」について意見はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

（森市長） 4番目について意見はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

（森市長） 5番目について、具体的な内容は記載されていないが、教育施設の充実を図るということである。意見はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

（佐藤部長） 他に全体を通して意見はないか。

（羽賀委員） 基本理念が非常に良い。「幸せになる」ではなく、「創り出す」が非常に長岡らしく、米百俵の精神が表れていると思う。

（森市長） これも「自ら成長する」など、全てに繋がっていく。一人ひとりの個性が輝く教育とよく言われているが、そうではなく「創り出す」は非常に良い言葉だと思う。

（大橋委員長） この言葉の選択には驚かされた。「幸せを追い求める、探し求める」など色々考えたが、「創り出す」はとても良いと思う。

（森市長） これも国際的だと思う。「創り出す」は主体的である。一人ひとりを大切にし、育ちを支援するというのは、子どもに主体を置いており、我々は自ら育つ子どもを支援する、という考えである。教育は先生に全ての責任があるような風潮にあるが、そうではないと考えている。教育の「育」とは、教えるだけでなく、育つようにするという意味が込められていると思っているので、「自ら成長する」という言葉を非常に気に入っている。「志に向かって努力する子どもを育てるために、ドキドキ、わくわく体験を提供する」とすれば、熱中！感動！夢づくり教育のことを知らない人にも理解してもらえらると思う。目的意識を持つことが大事である。

（加藤教育長） 大変有意義な総合教育会議となったことに感謝する。

（森市長） 何度も協議を重ねた甲斐があった。皆さんとの共同作業で作り上げたものを市長の教育大綱として定めることとする。

（佐藤教育部長） 細かい文言については、事務局のほうで主旨を生かして調整したい。本日は以上で終了とする。